

北京国際会議 ICCCBE 参加報告

—JACIC より 6 論文を提出、発表—

平成 20 年 10 月 16 日(木)～18 日(土)にかけて、中国北京市の北京友誼賓館ホテルにて、第 12 回 ICCCBE 国際会議 (International Conferences on Computing in Civil and Building Engineering : 土木・建築工学におけるコンピュータの活用に関する国際会議) が開催され、JACIC より門松理事長を含め、7 名が参加してきました。

この会議は、大陸間の持ち回りで開催されている学術会議であり、欧米の参加者も多い会議です。今回中国で開催されるにあたっては、アジア建設 IT 円卓会議のメンバーでもある中国清華大学馬智亮教授が、当国際会議の事務局長に就任され、日本からの積極的な参加を要請されました。

2. ICCCBE への論文提出

このため、今回円卓会議で JACIC 職員が北京へ出張する機会を捉え、JACIC が持つ情報技術のアピールおよび職員のプレゼンテーション能力の養成等を目的として、JACIC から論文を投稿することとしました。

論文の発表者と論文名は以下のとおりです。

秋山 実	標準部 部長	Standardization Activity of JACIC in Construction IT Field in Japan the 1 st 3-year Plan
河内 康	標準部主任研究員	Asian Construction IT Round-Table Meeting (ACIT)
鈴木信行	建設コスト研究部 主任研究員	A Study on Effective Construction Management Utilizing Advanced Computerized Systems
中村徹立	システム高度化研究部 部長	Construction By-Products Resource Information System(COBRIS)
池田鉄哉	CALS/EC 部 電子納品室長	CALS/EC for infrastructure development in Japan
影山輝彰	CALS/E 部 主任研究員	Development of CAD Data Exchange Format (SXF)

3. 会議概要

ICCCBE 国際会議は今回 INCITE2008 (International Conference on Information Technology in Construction : 建設分野の情報技術に関する国際会議)との同時開催のため規 300 人超の参加者がありました。地元中国から 1/3、アジア各国から 1/3、欧米から 1/3 という割合です。会議は基調講演あるいは招待講演、そして

10 個の並行セッションによる口頭発表からなり、最終日午後には訪問プログラムが組まれました。



図 全体会議の様子

全体会議のなかでは、北京オリンピック用に建設された「国家体育場」(鳥の巣 : Bird's Net と呼ばれる) の設計に関わる詳細なレポートがありました。中国建築設計研究院のファン氏から、あの構造物は大部分が鉄板と溶接で構築されており、設計面・施工面で大変な苦勞があったという話が紹介され感銘を受けました。鉄板の総重量 5 万トン、総工費約 500 億円のうち 60%が材料費とのことでした。また英国サルフォード大学の P・ブランドン教授からは、産業分野における三次元デ

ータの活用について世界中でどこまで進んでいるかという、最新の事例をたっぷり紹介して頂きました。

最終日の訪問プログラムでは、前述の国家体育場と「頤和園」(いわえん : 清朝時代の西太后の御殿)を見せて頂きました。国家体育場は一般の観光客にも有料で開放しており、場内から望む構造物は圧巻でした。(標準部 主任研究員 河内康)